



本や人と出会い・学ぶ

校長 山崎 泰央

毎年ノーベル賞の発表時期になると、日本人受賞者があるかどうかは新聞やテレビのニュースとなり巷の話題となります。今年、見事ノーベル化学賞に輝いたのは、リチウムイオン電池を開発した吉野彰さんでした。受賞が決まった時の吉野さんの満面の笑顔は記憶に新しいものです。受賞の記者会見では、「まっすぐ突き進む剛直さも必要だが真面目一辺倒だとつぶれてしまう。」と話し、心の余裕が必要なことも教えてくださいました。開発には言うに言われぬ苦労があったものと推察されますが、どんな困難に直面しても前向きに乗り越えて来た吉野さんだからこそ、受賞の知らせを受けた時のあの笑顔だったのでしょう。

さて、吉野さんが科学に興味を持ったきっかけは、小学校 4 年生の時の担任の先生に勧められた「ロウソクの科学」（英国の科学者ファラデー著）を読んだことにあります。その後、科学の不思議さと奥深さに魅せられ熱中するようになったようです。もしも吉野さんがその担任の先生に出会っていなければ、また、「ロウソクの科学」を読んでいなければ、人生は今とは大きく違っていただなかっただろうかも知れません。

私は、「人や本」との出会いはとても大切だと考えています。それで、本校でも、教育活動の場面にいろいろな人との出会いを取り入れ、子どもたちの学びや体験を深めています。先日、3 年生は、白ねぎの収穫作業を体験し、農家の方の工夫や努力の大切さを学びました。5 年生の「防災マップ作り」でも、県土整備事務所の方のお話を聞きながら災害の怖さと防災の必要性について真剣に話し合い、自分たちの生活を見直すことができました。また、6 年生は、中学校の教頭先生を招いて数学の勉強をし、中学校へ向けて希望を持ちました。その他の学年も、地域の先生や専門の方と一緒に学び、出会いを通して感動したり、自分を振り返ってこれからの生き方を考えたりしています。また、本校は開校以来、本との出会いを大切にしている、今年の読書週間には、図書委員会の子どもたちが、「宝探し」「ガチャポン」「しおりコンテスト」「音読コンテスト」など楽しい活動を計画し、全校児童が本に出会う機会を設けてくれました。私も、全校集会で「横綱琴櫻」の話を紹介し、日々たゆまなく努力をする生き方について触れました。これからも、本との出会いが子どもたちの心を豊かにしてくれることを願っています。

この 2 学期、保護者・地域の皆様には、初めての試みである「災害時児童引き渡し訓練」「非常時サバイバル体験（PTA保体部主催）」などの防災行事への参加や人権参観日への参加など様々な場面で学校にご理解・ご協力をいただき、深く感謝しております。いよいよ、明日から冬休みです。年末年始には、親戚の方など様々な方との出会いがあります。いろいろな本と出会うことも出来ます。それらの出会いを大切に、また一つ成長してほしいものです。どうぞよいお年をお迎えください。